

第13章 公害試料の検査、分析

第1節 大気関係に係る検査、分析

府公害監視センターでは、昭和48年度中に工場の煙道排ガス中のばいじん及び燃焼排ガス中のいおう酸化物の検査、分析並びに府公害防止条例に規制基準が定められているアンモニア、アクロレイン、塩化水素等の有害ガス、鉛、マンガン等のふんじん及び燃料中のいおう含有量の検査、分析を実施した。

また、環境中の浮遊ふんじんに含まれている金属成分及び窒素酸化物等の検査も実施した。昭和48年度における分析状況は表-157のとおりである。

表-157 大気関係分析検体数

(昭和48年度)

ばい煙	SO ₂ +SO ₃	燃 料	有害ガス	ふんじん	その他	計
649	80	1,366	2,288	2,227	128	6,730

- (注) 1 その他とは未規制項目をいう。
2 堺分室における分析数を含む。

第2節 水質関係に係る検査、分析

府公害監視センターでは、工場排水の検査、分析並びに工場排水による土壌の重金属及びPCB汚染を調査するために採取した検体の検査、分析を実施した。

1 水質検査、分析業務

昭和48年度には表-158に示すとおり、5,376項目の検査分析を実施した。これを項目別に分類すると表-159のとおりである。

表-158 水質関係分析項目数

(昭和48年度)

有害項目	一般項目	その他の項目	合計
874	3,074	1,428	5,376

- (注) 1 有害項目及び一般項目は、表-159に示す有害項目及び一般項目をいう。
2 その他の項目とは未規制項目をいう。

表-159 項目別検体数

(昭和48年度)

有害項目	一般項目						
カドミウム	73	水素イオン濃度	907	弗素	23	※ニッケル	1
シアン	275	B O D	413	クロム	181	※臭素	2
有機リン	—	C O D	351	※透視度	526	※NH ₄ -N	26
鉛	122	浮遊物質	545	※色相	285	※P C B	22
6価クロム	191	オイル	314	※臭気	285	※T O D	175
ヒ素	46	フェノール	30	※硫酸根	5	※マンガン	13
有機水銀	53	銅	84	※硼素	4	※水分	2
総水銀	114	亜鉛	155	※濁度	16	※溶出試験	10
		大腸菌群数	27	※塩素イオン	1		
		鉄(溶解性)	44	※全鉄	55		

(注) 1 ※は未規制項目をいう。

2 堺分室における分析項目数を含む。

2 水銀等汚染対策全国環境調査に伴う検査

環境庁が水銀等による水質、底質及び土壌等の汚染状況を全国的な規模で調査し、汚染機構及び汚染原因を解明するための検査、分析を実施したが、その一環として府公害監視センターでは府下における汚染調査の検査、分析を担当した(表-160)。

表-160 項目別検体数

(昭和48年9月)

項目	水質	底質	産業廃棄物	溶出試験	計
総クロム	5	5	—	—	10
6価クロム	5	—	—	—	5
カドミウム	5	5	—	1	11
鉛	5	5	—	1	11
ヒ素	5	5	—	1	11
全水銀	17	17	10	7	51
有機水銀	17	17	10	—	44
P C B	6	5	—	—	11
計	65	59	20	10	154

3 汚濁負荷量原単位調査

水質汚濁問題についての総量規制に関する基礎資料を得るため、環境庁の委託により、府下40工場を調査対象とし、水質汚濁の原因となっている工場排水のBOD、COD、TOD等の検査、分析を実施した(表-161)。

表-161 項目別検体数

(昭和48年度)

項目別	月別	12月	1月	計
透視度		87	116	203
p H		87	114	201
B O D		30	37	67
C O D		23	28	51
T O D		70	105	175
計		297	400	697

第3節 騒音・振動に係る検査、分析

府公害監視センターでは、規制基準、環境基準、自動車騒音の限度の適否の判定並びに府下における騒音、振動の現状は握や各種基準の見直しのために必要な資料を得るための検査、分析及び吸、遮音材の効果測定や空気振動の分析等を実施した。

昭和48年度に検査、分析した検体数は2,282検体であり、その内訳は表-162 のとおりである。

表-162 騒音・振動関係検体数

(昭和48年度)

検体数		分析内容			
騒音	2,103	航空機騒音	1,130	自動車騒音	850
		工場騒音	123		
振動	136	自動車振動	50	建設振動	50
		新幹線振動	36		
その他	43	吸遮音材特性	30	空気振動	7
		振動計の較正	6		